

令和5年度 緑丘中学校ブロック 小中連携研修会まとめ

1 目的

- (1) 全教育活動を通して、小・中学校と円滑な接続を図るため小学校と中学校が連携を深め、「豊かな人間性」「豊かな学力」「健康・体力」などの「生きる力」の育成を図る。
- (2) 学びの連続性を追求することを通して、学習指導法の工夫や改善を行い、基礎学力の定着を図るとともに、いじめ、不登校、非行等の課題解決のため、一人一人の児童生徒のよさを認め、どの児童生徒も存在感・充実感の持てる学校・学級づくりに努める。

2 日程 令和5年6月19日(月)

- (1) 受付 13:55～14:15(20)
- (2) 授業参観 14:15～15:00(45)
- (3) 準備・移動 15:00～15:15(15)
- (4) 分科会 15:15～16:05(50)
- (5) 準備・移動 16:05～16:20(15)
- (6) 全体会 16:20～16:40(20)

3 小中連携研修会で話し合われたこと

(1) アンケート結果

ア 期日・時間設定

- よかった。
- 6月ごろでよいと思う。
- 梅雨時期の中、ちょうど晴れ間が見られ、4校時後、小中連携の設定等がよかった。
- 授業参観のことを考えなければ、夏季休業中でもよいかなと思った。

イ 授業参観について

【低学年】

- ・ 元気な子供たちだった。道具を使って分かりやすかった。また、タブレット等を使い、一人一人の意見が大切にされていたと思う。
- ・ 一年生が1クラスで、人数が多く感じたが、担任の先生の声掛けにより、児童が落ち着いて授業に参加していた。
- ・ 楽しい雰囲気ですべてがスムーズに進められていた。
- ・ わりと自由にのびのびと授業に参加している姿が見られた。
- ・ タブレットを効果的に取り入れ、途中でしっかり片付けさせる取組が印象に残った。
- ・ 子供の思考の流れが分かりやすい板書となっていた。2年生のスイミーメーターがとてもよかった。
- ・ 5時間目、疲れてしまいますよね。でも、精一杯がんばっていました。

【中学年】

- ・ 楽しそうな雰囲気ですべてがスムーズに進められていた。
- ・ 課題にしっかり取り組む姿が見られた。
- ・ タブレットを使うことを楽しそうにしていた。

- ・ 設営がすばらしい。(活動の様子がよく分かる)
- ・ 4年生から落ち着いた授業態度になるのがよく分かった。

【高学年】

- ・ ちょうど午前中に授業をしていたところだったので、勉強になった。
- ・ 一人一人が一生懸命課題に取り組む姿がよかった。
- ・ タブレットの使い方にどの子も慣れていて、よく活用されているだなと感じた。(他学年も)
- ・ 落ち着いた授業でした。

【特別支援学級】

- ・ 楽しそうな子，集中できる子，よく動く子，様々な特徴をもつ子に「力をつける」「表現力を伸ばす」，その取組や粘り強さが参考になった。
- ・ 自立活動，生活単元が工夫されていると感じた。
- ・ 子供たちの紹介や学習したことが掲示されていてよかった。それぞれ特性のある子たちだろうと思うが，一生懸命学習に向かう子が多かった。自分の強みを見付ける学習を本校でもやっていきたい。
- ・ 初めに授業の流れを丁寧に説明することで，児童が見通しをもって授業に臨んでいるように感じた。
- ・ 子供たちが集中しながら課題に取り組む姿がすばらしかった。すっきりとした設営が印象的だった。(複数)

ウ 分科会について

- 中学校のテスト前1週間で，アフター9運動を各小学校でも以前は取り組んでいたの
で，またできたらよいのではという意見が出た。
- 中一の状況と小学校支援学級の悩み，進路に結びつけるために学習のやり方→宿題等の
情報交換が必要と感じた。
- 中学校に進学した子供たちの現状であったり，中学校の支援学級で行っている授業であ
ったり進路についても有意義なお話を聞くことができた。
- 中学校での生徒（本校卒業生）の様子を教えていただき，ありがたかった。家庭学習へ
の取り組み方を，児童本人，保護者と十分確認しておきたい。
- 中一の子供たちの様子を知ることができた。がんばりや課題を聞いて，小学校でも指導
していきたい。(複数)
- 中一分科会に，より多くの旧6年担任が参加できると，さらに充実した会になると感じ
た。
- 聞く姿勢，机上の整理，家庭学習の充実について，共通実践していきたい。
- 各学校の取組が知れて，よかった。
- 情報交換で，いろいろと話を聞くことができた。日頃より，小中連携が図られることの
重要性を感じた。
- カバン棚の整理が気になる学級があった。
- あいさつをしてから礼をする。
- 不登校傾向児童の報告物をもっと簡単にできないのか。(主任はとても困っている。)
- 学習の基本となる「聞く」態度を徹底して身に付ける必要があると感じた。

○ ノートに書いた方がよいもの、タブレットに書くもの→子供たちに何をさせたいのか。より有効な活用になるように、取り入れる方法を考えていきたい。

(2) 分科会協議

【学習指導】

○ 課題

- ・ チャイムと同時に黙想
- ・ 机上の整理（筆箱は出さない，ノート，教科書，タブレット）
- ・ 聞く姿勢→作業を止めて聞く。
- ・ タブレットの活用（表現力の向上・・・「聞く」宿題）
- ・ 家庭学習の取組

○ 指導助言

- ・ 求められている学力は何か。
- ・ 鹿児島県の実態 知識・技能は身に付いている。思考力・判断力・表現力，学びに向かう姿勢は低い。
- ・ 授業も講義型ではなく，子供主体で学び合う授業へ変えていく必要がある。そのために，何をしていかなければならないかを考えていくことが大切。（学習のしつけ，授業の構築，主体的・対話的に学ぶ分かりやすい授業，評価を基にした授業改善）

【生徒指導】

- ・ 4月に比べると元気になってきた。
- ・ 時間について休み時間 5分で準備しようとしている。各学年で練習している。学年が終わる頃にしっかりとできるようになるよう目指す。
- ・ 迷うことがあったら，その都度職員で決めている。
- ・ 学校であいさつを目標にしている。
- ・ 不登校が多い。チームになって話合っている。クラス問題行動において保護者との対応。相当な労力がかかってくる。
- ・ 携帯トラブル・ネットトラブル
- ・ 時間には5，6年が率先して手本を見せている。
- ・ 語先後礼をしてから言葉
- ・ 休み時間のうちに準備させる。担任がついて移動教室に行く。
- ・ 上着を着る・着ない（衣替え）の準備期間を設けている。
- ・ 不登校 SC と面談。少しずつ少なくなっている。
- ・ タブレット家で持って帰って学習以外のものについてたくさんやっている。寝るまで持っている子も。
- ・ アンケートをとっている。時間については守れていない。ノーチャイム。意識を持たせようとしている。
- ・ 不登校喫緊の課題。少しでも減らないか。
- ・ 不登校や問題行動への対応の在り方
- ・ 不登校中学校の兄弟と一緒に休んでいるパターン。体重が減っている。
- ・ 保護者の価値観が違う。溝が埋まらないのが現状。
- ・ 通信ゲームを休んでいる間に，休んでいる子同士でやっている。

- ・ チームを組んで行っている。(空き時間を使って) 保護者の対応は 3 人体制でしている。
- ・ 来ない理由。怠学。ずるずる休む。家庭で「もういいが」という雰囲気。
- ・ 精神的に弱いのか、些細なきっかけで休む。
- ・ 登校刺激をしない。保護者としっかり連携して話ができるようにする。もう無理しなくていいが。今まで学校に理解されていない。責められているような。気持ちを理解して。1 個ずつ取り組んでいく。保護者との土台をしっかりと。寄り添わないと寄ってこない。

【特別支援教育】

- ・ 小学校在籍中の様子や中学校に行ってからの様子について、新一年生を中心に情報交換できた。

(取組)

- ・ 小学校で基本的な生活習慣や学習の基本的しつけ等を身に付けさせ、中学校でのスタートがスムーズにいくようにする。
- ・ 保護者の正しい子供理解がないと指導が効果的に行えないので、保護者の困り感や不安に寄り添いながら連携を図っていく。
- ・ 子供が自己肯定感をもてるように全校体制で特別支援教育に取り組んでいく。

【中1分科会】

- ・ 不登校(別室, 民間フリースクール, フレンドシップ, 登校0日) → 中学校にも連絡。引継をしっかりと。
- ・ スマホ依存(モラル, 誹謗, 中傷...) ※ 悪質なものは家庭で対応を。
- ・ いじめ → ニコニコチェック → 内容を確認し, 声掛けをしている。中身については, 家庭間で。
- ・ 家庭学習の習慣を。(復習の習慣を)
- ・ 人間関係づくり → 社会生活に欠かせない。
- ・ 保護者対応 → 学校の方針を伝える。

4 本年度の共通実践事項

【学習指導】 『聞く姿勢, 机上の整理, 家庭学習の充実』

【生徒指導】 『あじみ・・・「あいさつ」「時間」「身だしなみ」』